

三重県立上野高等学校
同窓会報

VOL.10

白 HAKUA 亜

事務局：〒518-0873
三重県伊賀市上野丸之内107
上野高等学校内
TEL & FAX：0595-24-2231
ホームページ：
http://www.ict.ne.jp/~hakua/
E-mail：hakua@ict.ne.jp

緊急インタビュー

今回の東北地方太平洋沖地震は未曾有の大災害をもたらした。巨大地震の発生メカニズムの解明に取り組んでいる北海道大学大学院教授で同大地震火山研究観測センター長の谷岡勇市郎さんに緊急インタビューに答えてもらった。

今回の大地震は明治三陸地震（1896年・推定M7.2）よりも更に大きなものでしたが、115年後に再び起こると想定できるものだったのでしょうか？

今回は、明治三陸地震の震源よりも869年の貞観三陸地震に近い場所で発生しました。この時の記録は多くないのですが、多賀城で千人以上の人が津波で溺死したとされています。さらに仙台平野などでの津波堆積物調査の結果、今回の津波で水没した仙台空港の場所を越えていたことも明らかになっています。

この貞観地震はマグニチュード8.4程度と2010年の研究で推定されていますが、もっと大きかった可能性もあります。今回はマグニチュード9.0と日本で記録に残っている過去最大の地震です。

今回と同じ場所で過去に発生していたことが分かったので私を含め地震学者は今回の地震を想定すべきでした。このような事態になってしまい多くの地震学者は悔しく情けなく思っています。

今回の大地震の後、どのような態勢で取り組まれていますか？



プロフィール

たにおか ゆういちろう
大阪大学基礎工学部卒。96年、米国ミシガン大学大学院博士課程修了。この年、1896年の「明治三陸大津波」の原因を海底面近くで起きた「ゆっくり地震」とする論文を発表、当時の日本の新聞でも紹介された。同年に帰国し気象庁気象研究所に。05年に北大地震火山研究観測センター助教授。08年から現職。

東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます

北海道大学理学研究地震火山研究観測センターでは、①津波調査（北海道・青森県）、②海底地震観測、③陸上地震観測を実施しています。①は現地津波の遡上した高さを測定し、被害の様子を観察して津波の挙動を把握します。②は、大型船で地震計を発生場所の海底に沈め、余震の地震波の観測から震源域での発生の方角を調査します。③は、東北地方に臨時の地震観測点を設置して、誘発される大きな地震を観測します。本センターの研究者（学生も含めて）は昼夜を惜しんで今頑張っています。

今回の大津波

869年の貞観三陸地震の再来

北海道大学大学院教授 谷岡勇市郎さん（高29回）

被害に対する防災が必要です。直下で発生した場合、「緊急地震速報」は間に合いません。つねに、懐中電灯・電池・携帯ラジオ等を持ち歩くことを勧めます。伊賀市の地域防災計画を把握しておくことも重要です。

最近のご研究の成果を簡略にご紹介下さい。

一つは、「巨大地震の発生しかた」で、津波が観測される検潮所や津波計の波形をコンピュータを使って再現します。次には、「有史以前の巨大地震の発生しかた」です。有史以前の津波堆積物（津波が運んできた砂の分布）の調査結果をコンピュータで数値計算し、最終的に実際の津波堆積物を再現します。もう一つは、「津波警報システムの精度向上」です。

東海・東南海には影響はあってもすぐ心配すべきレベルではないと思います。東海地震は政府が唯一、予知の可能性ありとして観測網を充実させています。が、「観測情報」も「予知情報」も出ずに「緊急地震速報」になる可能性もあります。「注意情報」が出たら、自治体の防災計画に応じた行動が求められ、「予知情報」では首相から警戒宣言が発せられます。

伊賀は内陸なので、直下型内陸地震による

伊賀は内陸なので、直下型内陸地震による

日本が地震大国であり、津波の被害を世界で一番受けてきたことが大きな要因です。上野高校時代に物理や数学が好きだったことも地球物理学的な研究をしてみたくなった要因であったと思います。伊賀上野は、生まれ育った町なので帰るとほっとします。銀座通りもすっかり変わりましたが、やはり天神祭などは懐かしさを感じます。「上野市」がなくなったのは寂しいですが、「伊賀市」としての知名度を上げる工夫を期待しています。

取材：福田和幸 高18回

同窓会会長 左橋佳三



同窓会報「白亜」の発行に際し、平素、同窓会運営に格別のご理解・ご協力を賜っております。誠にありがとうございます。書面ではございますが、厚くお礼申し上げます。

先ず本年3月、東北地方を中心とした大震災により被災されました方々に、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。この震災に對しまして、多くの会員の方々からのご意見もあり、上野高校同窓会といたしまして、義援金十万円を中日新聞社会事業団を通じて献金させていただきますことをご報告申し上げます。

ごあいさつ

学校長 渡辺祐治



同窓会の皆様には、平素より母校の教育の振興に格別のご高配を賜り、誠に有難うございます。

さて、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は東北地方の太平洋沿岸に甚大な被害をもたらしました。この大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

今回の巨大地震の発生メカニズムは、太平洋の海底プレートが日本列島のある大陸プレートに沈み込むために生じるもので、プレート境界型地震と呼ばれています。近い将来に起こると予想されている東海地震や東南海・南海地震

名な小説家の方々や、日展等に何回も入選されている画家や書家の方々から、その作品の多くを寄贈賜り、それぞれ同窓会文庫や校長室等に保管展示致しています。また、本年3月に閉校になりました上野商業高校からピアノを上野高校が譲り受けたこともあり、少しでも多くの方に作品をご覧戴く他、ピアノを中心としたミニコンサート等の開催により、同窓会館の存在価値を高めるべく、明治校舎の一室に同窓会サロン室を設ける計画をいたしております。その他、恒例になっております「雪解」を顕彰する「雪解」のついでにや開放講座「ふるさと伊賀再発見」等の開催にも、参加いただきたく方が年々多くなっております。

もプレート境界型地震であり、マグニチュード8.5以上、最大震度7の巨大地震が発生するといわれています。このため、三重県では県立学校の校舎の耐震化工事が進められ、平成22年度までに95%の学校で完了しています。また、すべての県立学校に校内放送と連動した緊急地震速報システムが設置されました。

本校での地震に対する対策としては、東海地震の注意情報や警戒宣言に対する地震防災計画の策定、地震発生に対する避難訓練の実施、防災に関する講話を行っております。本年度は東北地方太平洋沖地震を受けて、地震発生の際の避難経路等の安全点検を実施し、また、避難場所、避難経路、緊急時の見直しを実施する予定です。今後も災害に対する生徒の安全対策と安全教育の充実に取り組んでいきたいと思っております。

私の住まいは岩手県大船渡市赤崎町でした。今回の震災で私の大学宿舎は津波に襲われましたが、幸い倒壊、流出は免れました。しかし、外壁には、地面から160cmのところに津波が達したことを示す汚れがくっきりと残されています。屋内は床上10cmの浸水で済みましたが、隣家は庭に面した窓ガラスが割れて屋内まで海水が侵入し、家財はほとんどが原型をとどめない悲惨な状態となりました。家の中や周辺は大船渡湾から運ばれた真っ黒な底泥に覆われ、どぶのような腐敗臭を放っていました。周囲には流されてきた車が無残な姿を曝しています。

寄稿

被災地の大学で

安否確認からキャンパス避難へ

北里大学海洋生命科学部教授 加戸隆介(高21)さん

2011年3月11日、私はこの日、出張で大学の相模原キャンパスにいました。遅い昼食をとっている時、あの地震に襲われました。関東でもひどい揺れだったので、まさか東海沖地震が遂に来たかと思いました。食堂のテレビで震源が東北太平洋沖だと知り、急いで事務室へ。次々に映し出される津波の映像に言葉を失いました。早速、

被災地から



福島県相馬市内の道路脇に打ち上げられた漁船(相馬高校新聞部撮影)

上野高校新聞部は相馬高校からの情報提供を受けて震災特集の紙面を発行し、励ましのメッセージを校内で募集して送った。写真は相馬から送られてきた写真の1枚。

同じ三陸から出張してきた事務職員らとともに三陸にある学部キャンパスの状況把握に取りかかりました。しかし、電話回線が津波により寸断されたため、衛星電話1回線が唯一の連絡手段です。しかもこれは屋外でしか使えない上、天候に左右されるため、通信には随分苦労しました。

我々の学部キャンパスは高台にあるので、津波の心配はなかったのですが学生のアパートの多くは海岸から近い場所にあるため気がかりでした。三陸の学部では、この数年間、防災訓練を



▲父母へ被災状況を説明する筆者(北里大H.P.から)

が何より重要です。現地の教員は、寒さと照明の無い環境下で、避難場所である大学のグラウンドに集まってきた学生の氏名確認と安全確保に努めました。突然の事態で、ノートも鉛筆もな

実施してきたため今回はその成果が活かされました。つまり、地震や火災などの災害時に、安否メールを教職員、学生の全てが決められたアドレスに発信することになっています。今回、地震直後に発信された教員からのメールで、学部キャンパスにいた教職員・学生が無事にグラウンドに避難したことを知りました。郷里に帰っている学生からの安否メールも現地にいる学生数を把握するのに役立ちました。

確認を行うことがどんなに大変なことか想像できるでしょうか？
一方、相模原のメインキャンパスでは、災害対策本部を設置し、ご父母からの安否確認への対応と現地情報の把握に24時間体制で取り組みました。一番大変だったのは、現地との通信がたった1台の衛星電話に頼るしかなかったことです。NHKで「三陸の大学キャンパスが孤立している」と報道されたのも、関係者の心配に拍車をかけました。さらに、現地の学生の安否

情報が本人を直接確認したものか、伝聞によるものか、津波前の情報か、津波後の情報かを明確に区別する余裕がなかったことです。それが、後に安否確認リストを大学のホームページに公表する際の混乱の原因となりました。

現地では、どこかの避難所でもライフラインが断たれた中で、身の安全や食の確保、寒さ対策は容易ではありません。ましてや、200名に近い学生を長期間、健全に保つことの大変さは想像を超えます。大学本部は地震発生から4日後に救援バスを現地に派遣し、現地に残っていた学生のうち、行方不明の1名を除いた全員を無事に相模原キャンパスに避難させました。

我々の学部キャンパスを当面、相模原キャンパスに避難させることにしました。学生の安全と教育への配慮からの苦渋の決断です。5月からようやく相模原で授業を再開したところですが、まだ研究機材は三陸に残してきただけです。それでも避難先の相模原で教育・研究の復興に向けて頑張っています。三陸を離れても気持ちは今なお大船渡市民と同じつもりです。

寄稿

社員の生活確保や復旧作業の毎日

サッポロビール(株)東北本部 福田成生(高32)さん

仕事で仙台に単身赴任して3年。3月11日14時46分、職場で大きな地震に見舞われました。

避難した小学校のグラウンドで余震に怯えながら点呼を取り、1時間後に帰宅指示を出したところに、大雪が。停電に断水、繋がらない携帯メールを発信し続けるうちに電池が切れる。帰宅できない社員と会社泊まり、懐中電灯のもと、ラジ

「全部、流されました……」のあと、長い沈黙。次の言葉が見つかりません。4月に入ってやっと仮住まいを用意でき、避難所から脱出して貰いました。市街地にあった会社の建物は大丈夫でした。総務の私は現地対策本部の事

務局役で、社員・家族の生活確保などの緊急対応、復旧作業に忙殺されました。原発問題の福島県では郡山に先事務所あり、どのような営業活動をさせるか一番の悩みで、慎重な判断を続けています。長丁場になりそうです。芭蕉の「奥の細道」ゆかりの地では、多賀城市はかなりの津波被害がありま

ちのええことなんや」と思いました。一方で、飲食店も再開したものの、肝心のお客さんが来てくれず、悲鳴をあげています。また、建物、機械、設備を復旧できず、売上がなく、廃業する事業者も増え、ハローワークには失業者があふれています。商売を立て直して生きてゆく糧を確保するため人々は必死になっています。余震に悩まされて復旧も一進一退ではありますが、前向きに進み始め、これからが正念場です。

上高時代の仲間からの励ましのメッセージをはじめ大勢の皆様からの有形無形のご支援やお励ましに、心から感謝申し上げます。

高校1年生の時の担任田中重之先生の「苦しい時が、頑張る時やで」の言葉を頼りに、復旧・復興に向け全力を尽くしたいと思っています。

仙台の自宅が激しく揺れた

救済ボランティアにも参加

東北大学大学院生 川上洋平(高52)さん

東北大学大学院理学研究科の川上洋平さんは、仙台市内で地震に遭った。不自由な生活を体験しながら被災者の支援ボランティアに参加。3月末に伊賀市に帰省した機会に当時の様子や体験を聞いた。

大地震の時は自室でシャワー中だった。まず地鳴りがして激しい揺れになり身動きできなかつた。室内は散乱。停電のためテレビの情報もなく全体的な状況は被災地の中ではつかめなかつた。

電気は翌日に復旧したが、断水が長く続き、水の出る場所を探して運んだ。都市ガスは長く供給停止が続いた。下水処理場が壊れて下水も流せなかつた。揺れていない時がないぐらい余震が多い。食糧の確保や友人の安否確認など地震後の1週間の生活が大変だった。食糧は、スーパーに3時間ぐらい並んですぐに食べら

れるものを手に入れた。電話も通なで市民どうして店の情報交換や物々交換をしていた。大学は学生に、4月末までは帰省するよう指示を出した。地震が後期試験の前日だったので、遠方からの受験生も多かつたはずだが試験は中止になつた。

津波の被害地域には一般の人はい立ち入れないが仙台市のホームページで知った高齢者の家などの片付けボランティアに応募した。依頼者は、昼は自宅の片付け、夜は避難所にと

いう人が多く、東京などへ出ていく子どもが帰れないので若い人と話せるのは嬉しい、と話していた。救援物資は避難所には届くが個別に避難している人には届きにくいようだ。仙台では、市内の商店街も閉まつたままだが道路や電気などのインフラの復旧が比較的早かつた。関係の行政システムがよく機能したのだろう。

福島の原発事故の後、学内の放射能の研究者たちは独自に観測してデータを公表している。今回のような巨大な自然災害では、科学の力は自然の力には及ばないことを思い知らされた。これからどう立ち直らせるかが問われている。

川上さんは「超短パルスレーザー光源の開発と応用」が研究テーマ。大学の建物への立ち入りは自粛となり研究用のデータや資料を持ち出して自宅で研究を続けるつもりだ。



▲激しい揺れのため散乱した自室

寄稿 福島で学んだ優しさ

医療ボランティア 若山としこ(高33)さん

4月24日から28日まで福島県で薬剤師会のボランティアに参加した。阪神・淡路大震災の時には現地に行けなかったという反省と、福島の友人に会いたいという気持ちに背中を押された。

活動開始の前日に本宮市に住む友人宅を訪ねた。有線放送が市内で測定したその日の放射線量を伝えていた。その直後、余震がきたが、友人達と一緒にあったおかげで、恐怖もやわらいだ。

翌朝からは、慈恵医大と神奈川県薬剤師の災害医療チームに加わった。福島市内の避難所、自治研修センターを拠点に、原発付近の町からの避難者がある施設や温泉旅館へ往診し、調剤や薬品の整理をした。震災から一ヶ月以上が過ぎていたため作業はスムーズに進んだ。そんな中、避難生活で疲れて

被災地へ

寄稿 岩手で見た美しき残像

ボランティア支援コーディネーター 中村伊英(高29)さん

3月11日、私は出張先の藤沢市である地震に遭遇しました。百貨店の7階催事場は大きく左右に揺れ、大きな陳列用什器は通路に滑り出しました。私たちもお客さんも、収まるどころか次第に強く揺れる恐怖に、腰が砕けて身動きがとれない状態が長く続きました。

6月、伊賀上野防災ボランティアネットワークを立ち上げ、地域の防災活動に参加していききました。また、翌年に発生した日本海重油災害の時は、三重県内では初の災害ボランティア支援センターを運営し、これも県内初のボランティアバスを企画しました。

正直、これを聞いて、ホッとしました。東海地震じゃなかった。宮城県沖ならいつもの地震だ、大した被害はないだろうと。数時間後それが、とんでもない思い違いであった事を思い知らされたのです。

私が防災や市民活動との関わりを持ち始めたのは、1995年の阪神・淡路大震災がきっかけでした。その年の



▲医療ボランティアのメンバーと(左端が筆者)

の一言で片づけられた!。蕎麦、蕨の薹やマイタケの天ぷらなど味わい深い郷土料理はとても美味しかったが、他に食事する人はなく、温泉を硫化水素から守る取り組みもしてきたおじいさんの言葉に心が痛んだ。

2日目の往診は200人近い被災者のいるJICA二本松。体育館に厚めのマットレスを敷いて寝泊まりしているお年寄りも多く、個室で1人になるのが不安だという。

3日目・4日目は土湯温泉の宿を何軒か往診。一部屋に何人も長く暮らす心労を感じた。一時帰宅を心待ちにしていたおばあちゃんは、「年寄りの子供はダメだっけ言うけど、私がいけば元気なのにとつぶやいていた。

自治研修センターでは、夫が南相馬市まで車で2時間通勤のため移動が不便で困っているというお母さんや、農作業ができそうな会津に移るべきか迷っているというおじいさん達に薬を渡した。多くの悩みを抱えているはずなのに、皆穏やかに温かく辛抱強かった。

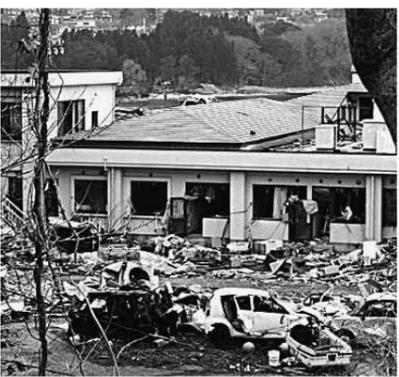
あつという間に迎えた最終日、12時間間に1本のバスを待つ間、特産品の店のおばさんが「買わなくてもいいからね」と色々試食させてくれた。震

災後、自分も何かしたいと思ってこの店でボランティアをしていること、断水が長かったため4つのバケツにお米をといだ水を貯めて洗いや花にやる水などに大切に使用していることなどを話してくれた。

今回のチームのスタッフは、みなフットワークが軽く、新しいメンバーにも親切な人ばかりだった。また、福島で会ったどの人も優しい前向きな気持ちにあふれ、その土地を愛していること、復興にむけて力を合わせて働いていることを強く感じた。

帰りの電車で自宅に近づくと、乗客が周りへの心遣いもなく、日々の暮らしに疲れているように見えたことが残念だった。

「下宿をしている子どもにも福島の名産品を持たせたが、これからはいやがられるだろう」、「福島ナンバーの車は県外ではきつと嫌われる」などと福島を離れられない友人は近くの人と話しているという。「そんなことは絶対にないよ!」と言いつつ、福島で教えてもらった温かく優しい気持ちを日本中に広げていきたいと思った。(岐阜県本巣郡在住・薬剤師)



▲福祉施設を襲った津波のツメ跡(筆者撮影)

に備えるという目的を掲げ10年が経過しました。その受講生たちで立ち上げたのが特定非営利活動法人「みえ防災市民会議」です。

3・11震災直後、この市民会議と、三重県、三重県社会福祉協議会、日本赤十字社三重支部の4者が直ちに「三重災害ボランティア支援センター」を立ち上げ、私はその先遣隊として岩手県山田町に入り、コーディネーターとしての業務に当たりました。地域を巡

回し、避難所を訪ねて感じた事は、もちろん報道されているように壊滅的な被害を受けた街の絶望感もありましたが、それ以上に、もともとそこにあった穏やかな湾の、美しい風景と、豊かで活気に溢れていたはずの漁港と人々の暮らしの残像です。私には見た事が無いはずの景色が瓦礫のむこうにさえ見えるのです。「壊滅」という言葉は使うべきではないと思います。困難な中にあつても、津波が奪い去っていかなくなった小さなひとつひとつの物を、がっちりとなぎ合わせて街を再生していく、それは決して不可能なことではないと思います。

「伊賀市災害ボランティア支援センター」もすでに立ち上がりました。今後、山田町を拠点のひとつとして被災地支援を展開していきます。被災地域の方々に、静かに寄り添いながら出来る事を形に、と考えています。(伊賀市在住・和菓子店経営)

同窓会から義援金

上野高校同窓会では4月の役員会で東日本大震災の義援金を送ることを決め、中日新聞社を通じて10万円を寄託しました。被災地域にお住まいの会員の皆様にお見舞い申し上げます。



▶市民合唱団には同窓生も多数参加した

高18回生がチャリティコンサート

波多野均リサイタル実行委員会が、5月15日、伊賀市文化会館で「波多野均チャリティコンサート」を開催し、収益金108万円を東日本大震災義援金として寄付した。この実行委員会には、テノール歌手で音楽大学で指導にあたり、波多野均さんの同期生(高18回)で組織。今回で5度目の演奏会で阪神・淡路大震災のときにもチャリティコンサートを開いている。

舞台は、波多野さんの独唱の他、大阪ゲヴァントハウス合唱団約40名と公募で参加した市民合唱団約70名が、組曲「奥の細道」と「ふるさと」の四季」を熱唱した。(写真上)前川圓さん(阿山29回)のソプラノソロも注目された。ゲヴァントハウス合唱団はフォーレ作曲「レクイエム」、平田聖子作曲「親鸞聖人ご和讃による曲集」と和洋の鎮魂曲を披露し、東日本支援にふさわしい感動的なチャリティコンサートとなった。

四国でも水産加工に大打撃

中道 昇(高32)さん

漁港の連なる三陸海岸の地震・津波による災害の影響は遠く四国にも及んでいた。松山市で水産加工会社を経営する中道昇さんは、津波の一報を耳にした瞬間に「まずい!」とその影響を予見できたという。

イカ……ここから水揚げされ、海外にも運ばれる。原発事故の放射能問題も特に大きく、養殖業者のほとんどが、仕入れ先のメイン港である銚子のエサは使わない、と早い段階で判断。安定供給のため他からの調達確保が大きな課題という。

彼は東京での演劇活動などを経て12年前に松山で水産加工会社モンドの代表取締役に。会社は、卸し、加工、販売と多岐にわたり、学校給食向けのイカは陸前高田から仕入れられている。注文済みのイカ短冊5トが入荷できず、松山の小学生の口に入らなかつた。売上げの半分を占めるのは養殖魚のエサ。サバ、カタクチイワシ、三陸でしか獲れないメロイドは現地で15kgのブロックに凍結し、30ト単位で四国や鹿児島島の養殖業者に運ばせているという。

三陸は魚介類の宝庫。わかめ、銀鮭、秋鮭、カキ、サンマ、かつお、マグロ、

しかし、彼はポジティブな精神の持ち主で次のように考える。まだまだ2次3次的にビジネスに対する被害が水産業界のみならず、他業種にも発生するだろうが一つ一つの事例に一喜一憂することなく、マクロ視点で冷静に対応してこの難局を打破し、逆に、この状況から生まれる新たな改革や、ビジネスチャンスをつかみたいと。原発問題がいつ収束に向かうかわからず、苦境はこの先も続くだろうが、「何でも来い!」の精神できつと乗り越えてくれるだろう。(取材・米岡広美 高32回)

「裁判員裁判」 日本と韓国の比較研究を出版

判事・今井輝幸さん(高38回)に聞く

今回出版された「韓国の国民参与裁判制度」から、日本の裁判員制度と比較した研究のポイントのご紹介を。

日本の裁判員制度と韓国の陪審制度の違いは、大きく2点あります。①日本では法律で定められた犯罪すべてが裁判員裁判となるのに対し、韓国では被告人が希望する場合には陪審裁判になる。②日本では裁判官と裁判員が1人1票を持ち、相談して判決を決めるのに対し、韓国では陪審員の意見は事実上参考にするだけで、判決は裁判官だけで決めることです。

裁判は、当事者や関係者の権利・人生に大きな影響を及ぼす重要な責任を担っているため、どうしても時間がかかります。だから、仕事と直接関係ない外国法研究の出版のために、普段の仕事を疎かにしたくなかったため、休日に文献を読み込みながら構想を練り、通勤電車の中で文章に起こし、推敲を重ねました。丸2年かかりましたが、韓国語を理解できる刑事法の学者は少ないので、重要な比較法研究になるはずだと思いい、夢中になってやり遂げました。

裁判員経験者のアンケート調査によると、それまで裁判員に当たりたくないと答えていた人のうちのほとんどが、経験した後は、当たって良かったと答えてくれました。これは、非常に重要な意味を持っています。事前には多くの方は不安だが、経験した後は充実感を感じる人が多いということです。どうぞ安心してご参加ください。

裁判官の立場からも、裁判員の方の多様な意見をお聞きすることは非常に考えさせられることが多く、毎回楽しみにしています。裁判官も成長していると実感しています。裁判員制度は必ず定着していくと確信しています。

裁判所に対して一般市民は敷居の高さを感じるのですが。

裁判官の生活は、一般市民の暮らしと何ら変わりません。買い物にも行き、幼稚園の役員もします。法律関係以外の友人もたくさんいます。

裁判所は、日常的に利用する場所ではないと思いますが、万が一、権利を侵害された場合には欠かせない機関です。裁判所は、人権保障の最後の砦とも言われ、裁判官は誠心誠意、紛争の解決に努力しています。裁判員制度が始まり、自ら参加されなくても、裁判員のコメンターの報道等によって、裁判

所がより身近に感じられる一つのきっかけになれば嬉しいです。

裁判官になるきっかけは？

高校時代から法学界を目指していたわけではなく、法学部はつぶしが効くと聞いて受けました。入学後、法律は1人1人が幸福を追求するためのものだと気づき、法学界に関心を持ちました。そして、実際に裁判官の仕事を見て、双方の言い分を聞いて判断する(判決)、あるいは話し合いで解決を進める(和解)ことが自分に向いていると感じ、裁判官を目指しました。

上野高校時代の思い出は？

会長として生徒会活動に熱中したことが一番の思い出です。文化祭や体育祭の準備に没頭しました。生徒会のメンバーとの絆は永遠です(笑)。また、「あすなろ同好会」で老人保健施設にお手伝いにも行きました。3年生の頃には、これ以上無理だと思えるくらい勉強しました。当時の校長先生の「頑張っただけ報われる時期は、人生においてそうはない、受験はそういう希有な時期だ」との言葉に感銘を受けたのです。



プロフィール

いまい・てるゆき さん

旧・阿山町(現・伊賀市)出身 京都大学法学部卒。東京大学大学院法学研究科修士課程修了。2000年4月裁判官任官。神戸地裁に。現在、奈良地裁判事。裁判官裁判も担当。著書に「韓国の国民参与裁判制度」

後輩の皆さんへ。高校時代に運動でも勉強でも友情や趣味でも自分が打ち込めることを見つけてほしいと思います。打ち込むことによって、将来が見えてきたり、何かが身に付いてきたりします。感受性の強い時期に経験する嬉しかったこと、顔から火が出るほど恥ずかしかったこと、悔しかったこと、涙したこと、いろんな感情が生きていきと蘇ります。懐かしく思い出される出来事があること自体、かけがえのない財産だと思います。

(取材・松本ひとみ 高52回)

特別寄稿 「不登校児の親」体験をくぐり抜けて 親の会代表 林 敬子さん(高20回)

今21歳の一人息子は、ある山間のゴルフ練習場に研修生として住み込み、キャディのアルバイトで何とかやりくりしながらアルバイトで何とかやりくりしながらゴルフファイトをしていますが、お陰様で健康に恵まれて自分のやりたいことに全力で精進することができているのが本当にありがたい幸せと感謝する毎日です。夫婦ともに小学校教員をしながら、保育園時代は幼い息子と過ごす生活を味わい、彼の個人的な行動につき合いながらやってきたものでした。その子が小学校2年生になって間もなく、学校に行けなくなっていました。

職業がら不登校について一般的な知識はあったものの我が子が当事者になると私達は完全にパニック。専門家の方々に相談し、どのように対応すればいいのか常にピリピリと



相談し、どのように対応すればいいのか常にピリピリと

どうか察してやってほしいと思いません。昼夜逆転、ネットゲームに没頭、反抗的態度、生活の乱れなど表の姿の陰で、彼らは自分を責め将来への不安に苦悩し、こんな自分が生まれてきたこと生きていることに価値が無いと思つてさえないのです。その子に対しても重要なのは、誕生してくれた時の喜びを思い出して大切なかけがえのない存在なのだということを心をこめて伝えてやることです。そして家では安心していられるようにしてやることです。心身を休めながら落ち着くと、子は自分らしく生きるために少しずつ動き始めます。親が初心を取り戻して子の心に寄り添えるように支え合う息の長い地味なボランティア活動で、私自身の生き直しをさせて頂いております。

プロフィール

はやし・けいこさん
27年間務めた京都市の小学校教諭を早期退職し、会の代表として活動。本年2月には「いが若者サポートステーション」で講演。



「劣等感の固まりでした」と話し出された。上野高校に入学した最初の英語の時間に「3単現のSとは何か説明せよ」という先生の質問にスラスラ応える級友に圧倒された。その池田少年が、「英語の参考書を読みまくる」、苦手を克服した。その努力が実を結び、やがて英語科教諭として母校に赴任された。「覚えられん英文は十べんずつ書いてこい」の名セリフで団塊の世代から以降の生徒に恐れられ、慕われる先生に。15年間の上高在職の後、転勤を重ねられて創立百周年の前年に校長として再び上高に着任、記念事業を終えられて退職された。

懐かしの先生を訪ねて

⑩

池田純之先生

強不息が胸に響きました。

クラブ活動は、バレーボール部と新聞部の顧問を続けられた。3年目に女子バレーボール部は県予選を勝ち抜き県外の大会へ出場という快挙を。が、当時の女子の宿泊遠征はゆるさず、部員は往復6時間もかけて試合に出場。その上、強豪と対戦して完敗。それでも彼女らはひと言も愚痴らなかつた。

退職後は、地域の役職を務められたが、これからは「シェークスピア全集をもう一度読み通したい。充電です」とのこと。「卒論はモームだったんですがこの頃はあまり読まれてません。シェークスピアは英語がすばらしい。声を出して読んでみると違います」と目を輝かされた。もう一度、先生の熱の籠もった授業を聞いてみたいと思えました。

(取材 安屋宣子 高19回)

上野城築城400年 高虎見参!!



▲上野城を訪れる人の眼を楽しませてくれる唐冠形兜（複製）
（財伊賀文化産業協会 提供）

伊賀上野城の堀と高石垣は、上野高校の卒業生にとっては思い深いものがあるだろう。この上野城が築城されて今年で400年となる。これを記念して12月25日までの間、さまざまな催しが企画されている。

上野城は、筒井定次に代わって1608年（慶長13）に伊賀に入府した藤堂高虎により現在の縄張りが整備された。大坂の豊臣方を守る目的で築かれた筒井の城が、高虎によって大坂方への徳川の備えの城として1611年（慶長16）に大修築されたのである。

さて、上野城の近辺では、藤堂高虎の旗指物「三つ餅」を図案化した織で築城400年を呼びかけている。上野城の「城代家老」で城郭研究家・福井健二氏らによる3本立ての講演会を既に催した。大天守閣では「藩主藤堂家の生活用具展」が、お城会館では「上野城歴史展・藤堂高虎古文書展」が12月25日まで開かれている。

また、「高虎サミットin伊賀」が上野城本丸広場で10月1日・2日に開催される。高虎サミットは藤堂高虎ゆか

明治校舎にサロンの教室



明治校舎3番教室を「文化サロン」として一般に開放する準備が現在進められている。芸術科教員の中から「在校生、卒業生、地域の生、地域の作品を展示、発表できる場所」との声を上げ、音楽の福岡友也先

りの地をめぐってほぼ2年ごとに開かれており、3年前には高虎の入府400年を記念して津市で、昨年は滋賀県甲良町（高虎の生誕地）で開催された。伊賀上野での開催は2回目で、築城400年に合わせて特別に1年早く今秋開かれることとなった。

さらに10月15日・16日は、「全国山・鉾・屋台保存連合会伊賀市大会」が開催される。これは、国重要無形民俗文化財に指定された全国の山車祭礼にかかわる代表者会議であり、伊賀上野の上野天神祭（10月25日）もこの一員である。藤堂藩が上野天神祭を再興・支援したこと、築城400年事業の一環として、楼車の整列や囃子の演奏などが行われる予定となっている。

これらの催しにあわせて、甲冑武将とゆるキャラが、10月と11月の土・日・祝は本丸広場でお出迎えしてくれる。甲冑のうちの一具は、豊臣秀吉から藤堂高虎が拝領したとされる「唐冠形兜（とうかんなりかぶと）」を複製しており、これだけでも一見の価値がある。

（報告・増田 雄 高42回）

生を委員長に「明治校舎文化サロン設置プロジェクト委員会」が発足した。教室にはすでにピアノが搬入され、同窓会の支援で、舞台や照明を設置し、コンサートや作品展示ができるよう計画が進められている。10月の同窓会総会の了解を得て、本年度中の完成を目指している。卒業生や地域の方々の協力を得てオープニング行事を予定している。福岡委員長は「上野高校を文化の交流の場と位置づけ、本校から地域の文化を発信していきたい」と話している。



マラソンのゴール幕を寄贈

上野高校の伝統行事「月ヶ瀬マラソン」は、現在は男子が月ヶ瀬まで走るが、女子は白檜の岡八幡宮をゴールとしている。男子のゴール用のゲートは創立100周年記念で寄贈されたものを使っている。別コースになった女子のゴールにはゲートが無かったため今年2月の大会に同窓会からゴール幕が寄贈された。（写真）

同窓会後援で毎年3月に開かれる横光利一の人と文学を偲ぶ「雪解」のついでに今年で第13回を数えた。名称は、第三中学（現・上野高校）在学中の初恋を題材にした作品の名にちなむ。横光の誕生日3月17日に近い日曜日に、上野と小学校時代を過ごした栢植とで会場を交互に移して開催。第13回は、栢植公民館で、初期の作品『頭ならびに腹』の朗読と鑑賞、利一少年が過ごした野村区の子童による『洋燈』の群読、栢植時代の友人との交流の紹介、絵手紙グループによる20頁の『頭ならびに腹』大絵巻の展示などがあつた。

「雪解」のついでに

多彩な41期生を語るにあたって、この人もまた絶対にはずせない。女子代表 伊藤尚美。大学卒業後独立独歩、水彩画家やイラストレーターで活躍し、その後テキスタイルデザイナー（布柄の作家）として、ブランド「nanan i IRO」を立ち上げた。そのベビークッズや雑貨、布生地は、今や世界50カ国以上で販売されるまでに成長。また、つい最近では、ミュージシャンのイメージビデオやCDジャケットを数多く手掛けるアートディレクター信藤三雄氏の監修のもと、金沢の石川森林公園で現在開催されている生物多様性の保全に向けた森づくりプロジェクト、エクト、ミィーシヤの森のロゴデザ



伊藤尚美さんの森のロゴデザ

（取材・岡森史枝 高41回）

同窓会協賛 開放講座 ご案内 テーマ「伊賀の先輩」

- 10月2日(日)「増田嘉兵衛」(増田奨学金、横浜開港) 講師 北出楯夫さん(高10回)
 - 10月16日(日)「田中善助」(町長、産業、観光開発) 講師 中 相作さん(高22回)
 - 10月23日(日)「高久甚之助」(JTB草創期、三中1回卒) 講師 北出 明さん(高13回)
 - 10月30日(日)「川崎 克」(上野城俳聖殿建立、国会議員) 講師 福井健二さん(高6回)
 - 11月5日(土)「立入奇一」(伊賀初の国会議員) 講師 吉村利男さん
- 午後2時より開講予定、場所は上野高校視聴覚教室。(申し込みは0595・21・2550)

41期生の話題

平井堅さん 母校でロケ



歌手の平井堅さん（高41回）がNHKの番組「SONGS」に出演。5月26日に母校、上野高校や上野城で高校時代の思い出を語るシーンを収録した。（写真）これは6月15日にNHK総合テレビで放映された。校舎やお城の周りを歩きながらの撮影で、自分の高校生活や音楽の道に志していた当時を振り返って語っていた。校長室で準備の間には、在学中に授業を受けた明治校舎の様子や担任の先生の近況を尋ねるなど、久しぶりの母校を懐かしんでいた。正門や明治校舎前での撮影の時、体育の授業をしていた生徒たちが、目の前を歩く「歌手・平井堅」に気づいて歓声を上げ握手を求めた場面もあり、遠巻きに見つめる後輩たちには手を振って応えていた。

20年ぶりの伊賀から発信

テキスタイルデザイナー・伊藤尚美さん(高41回)

インを担当した。卒業から今日までの道のりを振り返り、

各回のつどい

上中会 第20回総会に63名



▲校歌を歌う参加者

平成23年6月5日、ヒルホテルサンピア伊賀で、63名の出席のもと、総会が開催されました。ご来賓の上野高等学校同窓会長、左橋佳三氏からは明治校舎の中に文化サロンの開設を計画しておられることをはじめ同窓会の活動状況を詳細に報告していただきました。上野高等学校の渡辺祐治先生からは、上野高等学校案内にもとづいての説明、特に今年から3学年揃った理科科の主な活動や23年度の進路状況の報告などがありました。進学では、国公立大学合格者の数が昨年度に比べ減ったので更に指導に力を入れておられるとお話に心強く思いました。

記念講演では、元草津総合病院院長の吉川邦生医学博士(昭21年入学)が「

ん予防のための検診―主として消化器がんについて―」と題して話されました。専門的なお話の他に、一次予防として、禁煙、生活習慣、食生活が大きく関係しているとお話をうかがい、これからは更に注意してがんにならないようにしたいと強く思いました。

アトラクションはカラオケ指導で、全日本音楽教室指導者連合会市販の草川広吉氏(昭20年入学)による歌唱指導と独唱を楽しみました。続いての懇親会でも有志によるカラオケで盛り上がり、交流を深めました。

出席者の中の最年長者は、満93歳になられた澤島榮一氏(32回)で、毎回、元気なお顔を見せておられます。

会の締めくくりは全員による上野中学校校歌の大合唱となり、来年の再会を約束しながら解散しました。

上野高等学校同窓会会員の皆様は、本業と同様に同窓会活動にも関心を寄せています。

(会長 福井紀生 中42回)

阿山高女二十周年会に寄せて

昭和21年3月31日、学徒動員先から一日だけ学校に戻り厳粛に卒業式を行いました。「海ゆかば」と校歌を卒業の歌として歌い、

想い出深い学舎を去りました。翌年、故入交健久先生の復員を祝し同期生が集まったのが初回で「阿山高女二十周年」と名付けて六十有余年、回を重ねて参りました。



しかし、八十路に入ってからそれぞれ健康に悩みを抱えるようになり、身の回りの不安定なこの頃、今後とも会を続けていくには無理があるのでは、と話し合った末に解散しようとの結論になりました。

まだまだ元気な方も多く、淋しいですが今年の4月29日(昭和の日)、一堂に会して解散の会を開きました。若葉輝く伊賀路へ名古屋、大阪、藤沢からの方も含め40余名が参加。若き日の気分や姿に戻ったようで楽しく和やかな一日でした。校歌を合唱して閉会したのですが、「これ限りにせず、随時、四、五人でも集まって食事やおしゃべりを楽しませよう」を合い言葉に名残を惜しみながらお別れしました。

(世話人代表 松本 記)

上中・阿山 昭和19年入学 第9回同期会

平成22年11月13日、上野フレックスホテルで上中22名、阿山44名の計66名の出席をもって開催しました。

私たちの同級生は戦中、戦後を駆け

抜けたため特に上中では入学した学校と卒業校が異なる方が多く、名簿の把握が困難でした。このため判る範囲で案内を差し上げたところ女性の参加者が多く、例年のごとく盛況でした。80歳を過ぎるとみなさんは腰の痛さや不調を訴えられますが、顔だけは明るいので安堵しました。

懇親会では盛り上げに歌手の「山本のり子」さんを迎えましたところ、宴席までおつきあい下さり懐かしい思い出話に続きなつメロと楽しいひとときでした。あと何年続くか判らない同期会ですが、また参加したい、という声に幹事一同ホッとしたり一日ではありませんでした。



上中昭和21年入学生同期会

平成13年、有志の大変な努力により、第1回上中同期会が初声を上げ、爾来毎年開催し、11回目を迎えた。

我々同級生は、終戦直後の混乱期、昭和21年に、白亜の殿堂、憧れの旧制上野中学校に入学した。が、2年余りで、学制改革により地元の新制中学校に転校を余儀なくされ、別れた。それだけに青春時代の苦楽を共に過ごした懐かしい思い出とともに、77歳の今日まで強い絆で結ばれている。

今年も奈良で、との声があり、一番近い汽車通の島ヶ原三人組で幹事を引き受けた。

1909年創業の悠久を感じさせる伝統と格式のある奈良ホテルを選び、去る5月16日、五月晴れの好天に恵まれ、29名参加のもと開催した。

ホテル玄関前での記念撮影のあと、本館菊の間に移り、物故者81名と、先日の3月11日発生した東日本大震災において犠牲となられた数多くの方々のご冥福を祈り黙祷を捧げた。

次に校歌を力強く斉唱し、代表幹事、奥西繁君の挨拶のあと、懇々東京から馳せ参じてくれた吉木徹郎君の発声により乾杯を行い、祝宴に入った。

終始和やかに、昔話などに花を咲かせ



せ、澤克亮君から頂いた旨いお酒で、更に盛り上がりを見せ、大いに飲み、談じ、時の経つのを忘れた2時間余りの祝宴だった。

この会が1年でも永く続きますよう念じながら、お互いの健康を誓い合い、名残り惜しみつつ幕を閉じた。

(幹事・出井武次 高3回)

喜寿を迎えて 高3回

上野高校第3回卒業生の同窓会は、昨年10月26日・27日四日市の湯の山温泉

けれど東海地区だけでも一度集まってみたいね」と数人が話し合ったのが動機です。血気盛んな若かりし頃には、いざ集まろうとしても当時はそれぞれ勤めや子育てなどのためそう自由の利く時期ではありませんでした。が、いま65歳となり、大半が勤めからリタイアされ、悠々自適な生活を送られている方々や、また新たなグループを作りたい方々、今までのキャリアを活かして互いに助け合う機会にしたい方の再会の場等々を勘案してご案内をお出ししたところ、予想外に多くの方々にご参加戴きました。

開会に先立ち開催趣旨をご説明し、会が盛り上がり始めた頃を見計らって出席者それぞれから46年前に学舎を離れてから、約半世紀の歩みと今何をされていくか後どのような事をされていくかされるのか、面白可笑しく紹介されました。

泉グリーンホテルで開催しました。出席者は41名(男17・女24)で、東京、大阪・名古屋など各地から多数集まり、盛大でした。

私達が昭和24年に上野高等学校に入学した当時は、学制改革の激動の頃で、物資もとほしく教科書も満足になく、いろいろの苦難を乗り越えて昭和27年に卒業しましたが、私達が一番楽しみにしていた修学旅行は何故か取り止めとなり、京都日帰りの旅行となってしまう残念でなりません。

私達が卒業後、同窓会は毎年一泊二日で開催されていますが、特に今回は喜寿を迎える年齢となり、出席者に記念品を贈って卒業後64年近くの思い出話や近況など話に花が咲き夜遅くまで楽しいひとときを過ごしました。翌27日は朝から快晴で、ロープウェイに乗って標高1212mの御在所岳に登りました。

山頂は紅葉していてとてもきれいで、伊勢湾を眺望することが出来、その絶景に話はずみ、楽しい思い出となりました。御在所岳から降りてグリーンホテルで昼食をとり、名残を惜しみつつ来年度元気で再会できることを念じて散会となりました。

(幹事代表・中野繁男 高3回)

した。中には、高校時代の淡い初恋の告白や内緒で付き合ってた事など赤裸々な話やお世話になった先生の秘密の事、当時の悪い噂も話題になり時を過ぎるのを忘れてしまふほど楽しいひと時を過ごしました。今までの永い経験と実績から、これを契機に互いに助けられる提案も言って戴きました。

今後この会を最後の一人になるまで継続し、開催を2回(春、秋)にという事に成りました。また、鈴鹿や津にお住まいの方が多いので次回は呼びかける事にして、この会の名称を「上高39東海地区元気会」と命名して閉会しました。

その後、年賀状等で「開催して戴き楽しかった、また良かった」と喜びのお言葉を戴きました。今後、できるだけこの会を続けていきたいと思っています。

(3年3組 M・S 記)

上高39東海地区元気会



昨年、平成22年12月23日に名古屋駅前某所に東海地区在住の15回生16名が上高を卒業して以来46年ぶりに集まりました。「同級生の方々色々噂は聞く

上高普通科第24回 (昭和48年) 同窓会



1月2日、5年ぶりの同窓会が78名の同級生に加え5名の恩師にご出席いただき、上野フレックスホテルで開催された。8クラスから男女計25名の準備委員が集まり、昨年8月の第1回から計3回の会議を持った。毎回の会議とも皆が同窓会を成功させようと熱い議論が交わされた。ただ5年前はS君、今回はK君と二人の上野高校教諭が案内状の発送から回収まで一手に引き受けてくれたに助かった。

当日はまず全員の集合写真を撮る予定であったが、Sさんの到着が遅れるとの連絡が入った。Sさんは豪州に交換留学をしたため卒業年度は違いますが、どうしても皆が会いたかった人である。ホテルの写真室に全員が集まり待つこと20分。その間、Y君、K君、S君が何とか場所を持たせようと必死にMCを努めてくれた。残念ながらSさんは間に合わなかったが、デジタル写真のおかげで見事に皆の間に収まっていた。シバタカ先輩ありがとうございました。写真室から大いに盛り上がりだったので宴会は大盛況。惜しみながら4年後、還暦の年の再会を約束して中締めとなった。その後、夜遅くまで旧交を温めあつたことは言うまでもない。最後に当日仙台から参加してくれた二人のM君。一人は大震災前に関西に転動していた。もう一人のM君も無事が確認され安堵している。一刻も早く以前の生活に戻れることを心から祈りたい。(吉輪 康一)

上高第26回生同窓会

昭和50年3月に卒業して36年。5年ごとに開催する同窓会を1月2日、ヒルホテルサンピア伊賀で、恩師の杉本光祥先生、其道慶治先生、西口光先生のご臨席をいただき、53名が参加して開催しました。前年8月から6名の方の協力を得てどうにか開催できました。

当日は、午後4時の記念写真の撮影から始まり、物故者への黙祷、近況報告と進み、次回の代表幹事を紹介し、校歌を斉唱して閉会としました。場所

東京支部

上野高校同窓会東京支部総会・懇親会が昨年11月14日、八重洲富士屋ホテルで伊賀から左橋同窓会会長、渡辺校長先生他のご出席をいただき、支部会員120名の参加のもと盛大に開催されました。講演では伊室一義(中42回)さんに「サバンナの輝き」と題して、東アフリカタンザニアなどのサファリでの野生動物の自然の姿を多くのスライドを使いながらお話頂きました。懇親会では恒例の福引抽選会が行なわれ、目玉景品が引き当てられる毎に会場から歓声が上がりました。

東京支部ではこの他、恒例の行事として上高卒業生歓迎会を毎年開催、関東地区に求められた卒業生が先輩と交流できる場を設けて今年も6月12日に行なわれました。また、好評をいただいています支部会報「伊賀の友垣」は21号を昨年10月に支部会員の他、同窓会本部等に送付しました。

東京支部は同窓会活動に加え、今年2月に開催された「NINJAフェスタ in お台場」に「上野元気会」のメンバーを中心に約20名の同窓生が参加、伊賀からいられた皆さんに花束を贈呈して歓迎しました。(支部長 今西元郎 高7回)

新入生歓迎会

東京支部主催の新卒業生歓迎懇親会が6月12日に銀座の三笠会館で行われ今春の卒業生、寒川匡平君(中央大学)と新田滉君(埼玉工業大学)の2名を

名古屋支部

今年度の「上高かわら版」2号を5月に発刊しました。内容は昨年6月26日に開催した名古屋支部総会、懇親会を主体としています。開催の御案内を差し上げたところ、諸事情により欠席の連絡を頂いた方々が多数あり、その雰囲気を感じ取っていただければとご返事を頂いた皆様へお届けしました。また若手幹事の発案により会員の皆



▲歓迎会で近況を報告する学生たち

含む7名の学生が出席しました。

今西元郎支部長から、昨今の経済状況の中で就職をするために、コミュニケーション能力、将来の展望、語学力を大学時代に身につけることが必要で

京阪神支部

支部総会が、台風2号接近による悪天候の中、5月29日11時より、本部から左橋佳三会長、渡辺祐治校長、川上晃事務局長を迎え、大阪天満橋の大阪キャッスルホテルで開かれました。

冒頭、東日本大震災の犠牲者を悼んで全員が黙祷。また、支部長の挨拶で、3月の支部役員会で提案された「東日本震災の被災者支援義援金」について、支部の皆さんの気持ちを斟酌して5万円を日本赤十字大阪支部に寄託したとの報告がありました。左橋会長の祝辞の中で、昨年7月に焼失した上野の普原神社拝殿の再建奉賛金の募金依

様への連絡や情報発信の方法として名古屋支部ホームページ(https://atpk.jp/enokoukou)の立ち上げや、ツイッター(enokoukou)での近況連絡を始めました。一度検索してみてください。そして、東京支部を参考に3月に卒業した新会員歓迎会の開催を予定し現在参加を呼びかけているところです。

少しずつですが、同窓会の輪が各方面に広がっていかねばと考えています。ご協力をお願いいたします。(支部長 浅菜宝明 高17回)

ある、と新入生に対する激励の言葉をいただきました。次いで同窓会の左橋佳三会長から同窓会の活動について、教頭の松岡泰之先生からは現在の上野高校の現況について報告がありました。

料理に舌鼓を打ち、話に花が咲く中、学生たちの近況の報告がありました。新入生たちは東京での学生生活に胸を躍らせ、2年生たちは単位の心配をしつつも学生生活をエンジョイしている様子が伝わってきました。

東京支部の会員は2千人を超えるとのこと。出席した4年生は既に企業の内定を得たのですが、就職活動中に上野高校同窓会の繋がりに多く助けられたそうです。人と人との繋がりの重要性を感じさせられた一日でした。

旧担任代表 富沢要樹(高34回) 頼も加わりました。 議事のあと、上野高校講師で同窓会副会長でもある福田和幸さん(高18回)が「伊賀の文学風土記」と題して講演されました。横光利一をメインに、著名な同窓生の近代文学についての話を出席者は興味深く聞き入っていました。懇親会では、互いに故郷を懐かしみながらのまたとない楽しいひとときを過ごしました。

(支部長 百本惇滉 高7回)

『ライフデザイン学概論』を出版

大妻女子大准教授 宮田安彦さん(高31回)

大妻大学家政学部ライフデザイン学科で教えている宮田安彦さんがその名も『ライフデザイン学概論』という本を出版。現代社会の抱える問題(地球環境、心の病、生活文化の喪失など)に対応するための「ライフデザイン学」という新しい学問として体系づける内容。具体的な事例や統計を通して身近な「生活」を多面的に分析している。

平成22年度 寄贈著書(敬称略)

詩集『晩節の青い炎』 貝澤 治範(高14回) 作品集『四時彩映』 佐藤 靖(高7回)

次の学年も集まりました

(本年5月まで)

事務局に連絡のあった学年同窓会等実施学年で原稿掲載以外のもの

○ 上高7回 51名 22年7月24日 シェラトン都ホテル大阪

○ 上高25回 91名 23年1月2日 上野フレックスホテル

○ 上中46回 35名 23年4月6日 青蓮寺レックホテル

ご報告のあった学年に郵送費の補助を致します。事務局までご一報下さい。

ご寄稿のお願い

各支部を始め各回の集まり、各部のOB会などのご報告やご案内の原稿を事務局までお寄せ下さい。なお、なるべく多くのグループの情報提供ができれば、600字以内でまとめていただきますようご協力をお願いいたします。写真は、多人数の集合写真もやむを得ず縮小して掲載致しますのでご了承下さい。

同窓生の話題をお寄せ下さい

「白亜」にご登場いただける「ひと」や話題を募集しています。自薦他薦を問わずお寄せ下さい。また、ご意見ご感想もお願いします。(会報委員会)

論文集『韓国の国民参与裁判制度』

今井 輝幸(高38回)

論文集『人的資源管理要論』現代経営行動論 服部 治高(高7回)

『ライフデザイン学概論―真に豊かな生活を求めて―』 宮田 安彦(高32回)

『乱飛乱外』6冊 田中ほさな(高41回)

寄贈書画(敬称略)

油絵1点 森 公美(高19回) 書 3点 廣部利久(高2回)

美枝子夫人(高6回)の作品

著書のご恵贈のお願い

著作を出版される卒業生の皆様のご活躍は在校生にとって大いなる誇りであり、励みでもあります。図書館入り口の書棚で紹介し、同窓会文庫に収集し永く保存し、後に続く者の心の糧にしたいと考えています。

同窓会にご恵贈くださいますようお願い致します。(連絡先は1面上段に)

母校の近況

今年から入学定員が1クラス減って7クラスとなり、全部で23クラスの規模となりました。近年では最も少ない学校規模になります。これも伊賀地区の中学生の減少からやむをえないことだといえます。今後も7クラスの入学が見込まれ2年間は1クラスずつ減少です。それにもない教職員数も減っていき、クラブ活動予算や、所属部員数の減少など、今まで通りのクラブ活動が難しくなると予想され、今後、何らかの支援を要請する声が高くなるのでは、と思います。

今年も理数科が全学年揃いました。難関国立大学への進学など、普通科もふくめた生徒の進路希望の実現に教職員一丸となって努力しています。担任も、新進気鋭が揃っており、渡辺宏泰理数科主任を中心として、様々な取り組みを進めているところです。

4月19日にバス研修がありました。1年はナガシマスパーランドに、2年は京都の大学見学に、3年は大阪のユニバーサルスタジオ・ジャパンに行きました。4月下旬から5月末にかけて運動部は県総体やインターハイ県予選に参加しました。

6月8日には体育祭がおこなわれました。5月の中間考査の終了直後からクラスで練習を重ね、クラス対抗全員リレーや、大縄飛びなどの団体競技に生徒は大いに盛りあげました。

6月18日からの東海総体には陸上部が出場しました。同日に本校は授業公開日でした。本校の保護者のみならず、伊賀管内および近隣府県の中学3年生やその保護者の参観がありました。

イギリスでの短期語学研修に今年も7月17日から23名の生徒が参加します。これは例年PTAからの支援を受けて実施されるものです。有意義な研修になるよう期待したいものです。7月15日からは高校野球三重県大会が開催されます。昨年度はベスト4まで勝ち進んだので、今年も活躍が期待されます。

8月3日から福島県で開催される全国高校総合文化祭に写真部と新聞部が参加します。震災にまけない東北地域の実情を感じ取りたいと思っっています。(上野高校新聞部顧問 中川 力)

平成21年度(平成21年9月1日~平成22年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会名簿特別会計収支決算書

Table with 2 columns: 1. 収入の部 (Income) and 2. 支出の部 (Expenditure). Includes items like 前年度繰越金, 売上高, 雑収入, 会議費, 通信運搬費, etc.

平成21年度(平成21年9月1日~平成22年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

Table with 4 columns: 1. 収入の部 (Income), 2. 支出の部 (Expenditure), 対 比 (Comparison), 対 比 (Comparison). Includes items like 前年度繰越金, 入会金, 年会費, etc.

平成22年度(平成22年9月1日~平成23年8月31日)三重県立上野高等学校同窓会一般会計収支予算書

Table with 6 columns: 1. 収入の部 (Income), 2. 支出の部 (Expenditure), 対 比 (Comparison), 対 比 (Comparison), 本年予算額 (This year budget), 前年度予算額 (Previous year budget). Includes items like 前年度繰越金, 入会金, 年会費, etc.

平成22年度(平成22年9月1日)三重県立上野高等学校同窓会名簿特別会計収支予算書

Table with 4 columns: 1. 収入の部 (Income), 2. 支出の部 (Expenditure), 対 比 (Comparison), 対 比 (Comparison). Includes items like 前年度繰越金, 売上高, 雑収入, etc.

平成23年度(2011年) 総会のご案内

とき 平成23年10月15日(土)
■14:00~ 記念講演 ■15:00~ 総会 ■16:00~ 懇親会(会費3,000円)

ところ 上野フレックスホテル

伊賀市平野中川原544-2 ☎0595-21-3111

記念講演

講師 千葉大学法経学部 総合政策学科教授 倉阪秀史さん(高33回)

演題 「震災後のエネルギー供給
―再生可能エネルギーでどこまで賄えるか―」

プロフィール

東京大学経済学部卒。環境庁(当時)、メリーランド大学客員研究員を経て1998年に千葉大学法経学部准教授、2008年から現職。著書に『エコロジカルな経済学』、『環境政策論』、『環境を守るほど経済は発展する』など。趣味のマラソンでは各地の大会に忍者衣装で出場している。

懇親会アトラクション

上野高校 ギター・マンドリン部員 & 吹奏楽部OB有志による演奏

総会報告

平成22年10月17日、上野フレックスホテルで上野高校の同窓会総会が開催され、議事は原案通り可決されました。記念講演は関西テレビ放送アナウンサー岡本栄さん(高21回)が「伊賀のこれから」と題してパワーポイントを駆使して話されました。伊賀の文化、建築、民俗など多岐にわたり、わかりやすい語り口で、聞く者みな、身近な話にう

なづきながら聞き入りました。伊賀についてその特徴が再発見でき、有意義なお話でした。アトラクションでは一弦琴を荒井真道天台真盛宗弘誓山本願寺住職に演奏してもらいました。また、尺八で牧原一路が伴奏されました。校歌の演奏もあり、楽しい時間を過ごすことができました。今回は講師学年の第21回と協賛学年の第10回が呼びかけ、過去最多の150名が参加しました。

会費納入のお願い

会員の皆さまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本同窓会は左記のように、非常に活発な活動を行っております。

- ・同窓会報「白亜」の発行
・ホームページの運営
・一般公開講座(明治校舎で学ぶ「ふ」と伊賀 再発見)
・「雪解」のつどい(の後援)
・百周年記念施設の維持管理
・東京、名古屋、京阪神支部への支援
・上中会、くればは会、扇の芝会への支援

- ・各学年同窓会への支援
・上野高校への支援
・同窓会名簿の管理
・総会の開催

また、明治校舎に文化サロン教室を設置する準備を進めています。

このような同窓会活動は、全会員にお願いしております。年々会費と毎春の卒業生による新入会員の入金により運営されています。会費納入に関しまして、以前は約2,800名の会員のご協力いただいていたのですが、近年、ご協力いただいている会員は2,200名余に減少してきております。また、上野高校の1クラス減にもない2年後以降は入金も減少いたします。上野高等学校同窓会の経済基盤を強固なものにし、母校への支援、会員への情報サービスの充実、更なる発展のために、今年度も年会費(一口2,000円)の納入につきまして、会員の皆さま方のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

同窓会名簿発行のお知らせ

既にご案内の通り、本同窓会では5年ぶりに「同窓会名簿」の改訂発行を企画し、今年度中に、地元での印刷の協力組んでいただき、向けて調査、編集作業に取り組みたいと考えています。同窓会活動発展のためにご協力をお願い申し上げます。

百周年記念誌を頒布

平成11年に創立百周年を記念して発行された「自強百年の歩み」(500ページ)と「上野高校新聞縮刷版」(昭和23~平成11年)をご希望の方にお届けいたします。いずれも1冊1,000円、送料は別途500円。お申し込みは同窓会事務局まで。

「宛名不明会員解消」にご協力を

上野高校同窓会は42,000名以上の会員により構成されており、会員情報の正確な把握と情報管理は同窓会活動の根幹であると考えています。しかし、年月の経過にともない、転居・ご逝去等により、住所等の情報が同窓会事務局で把握できなくなっているケースが出てきております。

上野高校同窓会会員であるご家族やご友人が、「同窓会報「白亜」」が送られてきていない」と言われている場合、その方のご住所等が事務局で把握できなくなっています(学年同窓会開催案内の宛名情報も幹事様に提供できなくなっています)。このような状況の方は、ご本人あるいはご家族(ご友人)の方から同窓会事務局までご連絡をお願いいたします。また、ご逝去された場合も、ご家族の方からご連絡いただくようお願い申し上げます。ご友人から連絡をいただいた場合は、ご本人(ご家族)に確認の上、情報を管理させていただきます。

この取り組みは、会員の基礎情報正確化のためであって、お知らせいただいた情報をご本人(ご家族)の了解なく「同窓会名簿」に掲載することはありませぬ。ご協力のほど、よろしくお願いたします。